

▼海外赴任で最も悩ましい事は子供たちの教育だ。海外への転校は日本国内のそれと異なり言葉の違いだけでなく、入学・卒業の時期や学習方法などが全く異なるために、「違い」の負荷が子供に掛かる。それにより、多くの子供の心身に影響を与える。それらを乗り越えて適応する逞しさを身に付けて欲しいと期待をかけるのだが・・

アフリカも含め三回目の海外転勤を打診された時は、これらの理由で赴任を拒否し続けた。しかし、代わる人が居ないとかで、結局は会社側に押し切られた。海外子女の犠牲と苦勞、その加害者は会社側にあるのだと云う認識を持って欲しいと、人事責任者へ訴えた事もあった。この赴任では、長男と次男は日本に置いて、長女を帯同した。ようやく日本での生活や学校に慣れて友達も出来た長女には辛い事だったと気の毒に思っている。

▼この時は1991年にNJへ再赴任し、そ

して4年間滞在した。住居はハドソン河畔の新築の低層集合住宅を購入し、滞在中に引越しによる煩わしさを避けた。ハドソン河越しにマンハッタン島の摩天楼が見えて、家族三人にとっては快適で優雅な住居ではあった。長女はシカゴから帰国して、狛江の小学校から中学へ、一度、転校して川崎の中学校を経ての渡米で、私学のNJドワイト・ハイスクルへ転入した。ここは小中高の一貫学校で、事前に何度か学校を訪問して、これまでの履歴などを説明し入学の許可を得ていた。通学は黄色のスクールバスが集合住宅の入口まで迎えに来た。このバスは特別仕様で、生徒たちの乗降中は赤い「停止」のボードを魚のエラの様に車道側に広げる。その間、後ろの車は決して追い越しは許されない。

この地域には多くの日本人駐在員とその子女もいて、帰国後の高校・大学への受験への対応する日本の塾も進出していた。子供にとっては日本語で話せる塾は、現地校より楽しかったかも知れない。人格形成に大切な多感な時期を過ごす海外子女たちにとってはこうした塾は勉強だけでなく、憩いの場にも

なっていたようだ。

▼この米国赴任は情報通信機器の営業で、台頭する日本へ様々な政治的な動きが頻繁になる時期だった。マンハッタンのシンボリックなビルをバブルの勢いで日本企業が買収して、ニューヨーク市民の大きな反感を買った。ジャパン・バッシングの火に油を注ぎ、時として仕事の難しさ生じる事もあった。

そんな環境でも、幸いにして担当した自動車電話は車携帯電話へ移行し、ヒット製品もあって、この新しい通信分野の進歩に接する事は楽しくもあり、とても新鮮だった。



ヒットした車携帯電話

▼1991年から今のWI-FIにも通じる先駆的新事業(フリーダム・リンクとして登録)を大手の通信社と推し進め、アメリカ中西部全体へ大掛かりに市場導入した。システム構築の紹介と併せて、保守点検方法や販売プロ

グラムも発表して、この通信全社の技術・営業部門などへ強力なアプローチを仕掛け、併せて、通信会社の社長を日本へ招待し、その支援体制を実見してもらった。加えて、各地でのキックオフミーティングには多くの販売店などの関連者を招き「フリーダム・リンク」を市場への浸透を図った。この愉快な仕事を推進した仲間たちとは彼私の関係なく、社を越えて退社後も交流を続けている。

▼大いに好奇心をくすぐったのは、会計システム関連の仕事でマクドナルド大会へ参加した時の事だ。当時、全米には八千余のマック店があった。ラスベガスの巨大な会場には全米各州の全店からオーナー夫妻などが招待され、半分はお祭りだが、半分は真剣な販売促進の大キャンペーンを行っていた。

会場中央に設えたボクシング・リングに上がったマクドナルドの役員がマイクをもって、優秀なマック店を呼び上げ、褒め称え、会場の皆が大喝采する、そのダイナミックなやり方には驚いた。この時に最も拍手を浴びたのは「69セントのマック」。その安さで顧客を大いに増やしたアリゾナ州の田舎町の

マック店だ。店主の老夫婦の弾ける様な笑顔は忘れられない。これがアメリカかと感じた。

▼ラスベガスと云えば、CEショウ(電子機器見本市)への参加で、1970年代のアメリカ滞在中も含めて、ほぼ毎年、15回以上も出向いた。このショウは新年早々に開催されるので、正月気分はこの展示会準備で断ち切られる。ここでは各社がその年の新製品などを一斉に展示紹介する。展示ブースの準備や顧客対応、加えて、日本からの出張者の世話など、現地人スタッフと一緒に忙し。

展示ブースの完成が遅れそうになれば、気持ちも焦り、開催前日の夜遅くまでヤキモキさせられる。労働組合が絡んでいるので、やらに手伝う事も出来ない。それでも、開催当日の朝になれば出来上がっているのは流石にアメリカの底力だと思った。日本からの出張者にはカジノを徹夜で興じる輩もいる。節度ない者へは注意が時には必要だった。

▼この時は4年間で三度目の海外勤務を終えた。長女の学期末と日本への転入時期もあって、家族を残して単身帰任し、日本に残っていた長男、次男と3人の暮し。妻と

長女はその後6ヶ月程NJに留まってから帰国し、横浜の自宅に久々に家族5人が揃ったのは1993年だった。その後は出張ベースで海外へ行くだけとなった。

2001年に退職し仕事を離れて、それまで行けなかった世界遺産などへの旅を続け、写真と俳句で旅先の思い入れを深めている。

団欒や家族の揃う関東煮

終り



仲間からのカード：It won't be the same here without you! GOOD-BYE AND GOOD LUCK!